

A stylized logo for 'Canoe' where the letters are integrated with the shape of a canoe and its paddle. The word 'Canoe' is written in a cursive, handwritten style, with the 'C' and 'e' extending into the hull of a canoe. A paddle is shown as if it's part of the canoe's structure, with the blade pointing downwards.

土佐町

町勢要覧 2021





contents

- 2p …… 水で生きる
- 4p …… SDGs
- 6p …… 棚田
- 8p …… 土佐あかうし
- 10p …… 第一次産業
- 12p …… 第二・三次産業
- 14p …… 観光
- 16p …… 教育環境
- 18p …… 健康・福祉
- 20p …… 防災、地域おこし協力隊
- 21p …… 暮らし、議会
- 22p …… カヌー振興、情報発信
- 23p …… ふるさと納税
- 24p …… 集落活動センター、地域担当職員制度
- 25p …… 高校魅力化、移住・田舎暮らし  
集落営農組織
- 26p …… 土佐町まっぶ、まつり・イベント
- 28～31p 土佐町特産品
- 32p …… 土佐町のあゆみ
- 34p …… 発刊に寄せて
- 35p …… 土佐町プロフィール

# 水で生きる

四国山地の懐に抱かれて  
たたくむ土佐町。

私たちのまちは、

豊かな水に恵まれています。

緑濃く、命に満ちあふれた山々を養い、

まちに生きる人々の暮らしを育み、

遠く離れた土地との絆さえも深めてくれる。

あらゆるものを活かす、宝物のような水――。

私たちはこれからもずっと、

このかけがえない水とともに、

このまちで生きていきたいと思えます。

# 「誰ひとり取り残さない」 持続可能なまちづくり

土佐町がSDGsに取り組む意味とは？

土佐町が自治体SDGsの推進を通じて実現するのは、「経済」「社会」「環境」それぞれに関する人々の営みが、地域で循環し、互いに相乗効果を発揮しながら、これからの時代において持続可能なまちへと更新されることです。そして、そうした人々の営みを通じて水源が守られ、これからも土佐町が水源のまちとしての価値を発揮し続けることです。

SDGsに掲げられた17のゴールを詳しく見ていくと、土佐町にとっても身近なことが沢山書かれています。例えばゴール2「飢餓をゼロに」は「見ると食料問題のことが書かれているようですが、英語の原文では「飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する」と書かれています。実は、農業のゴールでもあるわけです。

また、ゴール15「陸の豊かさを守ろう」でも「持続可能な森林の経営の実施」について書かれていたりします。こう見ると、農林業が基幹産業であり、水源のまちである土佐町にとっても、身近に感じられます。

## SDGsとは

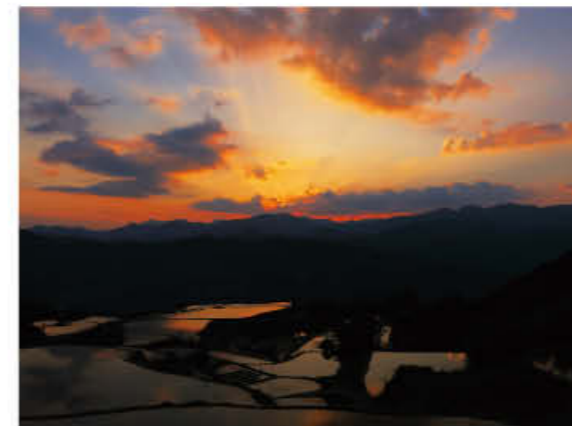
土佐町が現在取り組んでいる「SDGsと住民幸福度に基づく持続可能なまちづくり」。

でもこの「SDGs」ってそもそも何？

SDGsとは「Sustainable Development Goals」の頭文字をとった略称で、日本語では「持続可能な開発目標」と訳します。2015年に国際連合のサミットで採択された世界的目標です。

背景にあるのは気候変動、そして様々な社会課題です。最近、局地的豪雨や激甚災害が増えたと感じている方も多いため、これらは温室効果ガスによる地球温暖化が原因とも言われています。また、土佐町や日本は人口減少が課題となっており、世界全体では2050年〜2060年ごろに人口100億人を超える見込みです。これから世界人口が増えていくのに合わせて、食べもの、特に「肉」や、飲み水が不足していくことが予想されます。SDGsは、こうした未来に備えて、世界各国が取り組んでいかなければならない目標なのです。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsと住民幸福度に基づく持続可能なまちづくり

土佐町は現在、SDGsの視点をまちづくりに取り入れ、「SDGsと住民幸福度に基づく持続可能なまちづくり」を推進しています。「住民幸福度」はこれまで土佐町が培ってきた暮らしの豊かさや文化の大事さを、SDGsはこれから世界が向かっていく先、そしてその中の土佐町のあり方を表しています。そして、それら二つを両立させていくことで、「土佐町の暮らし」が持続可能となっていく予定です。

土佐町はSDGsの達成に向けた優れた取組を提案した自治体の1つとして「SDGs未来都市」に選定されました。(令和2年7月)

地方創生SDGs・「未来都市構想」





# 棚田

四国山地の1000メートル級の山々に囲まれた土佐町は、

その起伏に富んだ地形と寒暖差のある気候を活かして、棚田による良質な米を生産しています。

平地が少ないこの地に先人たちが

山や谷を切り開き、築いてきた棚田は、

今も生産者の細やかな手入れによって維持され、

毎年豊かな実りをもたらしてくれます。

山の急斜面を大空に向かって駆け上がるように、

田んぼが十重、二十重と連なっている姿は、

私たちのまちの宝です。

土佐町は令和2年に棚田地域振興法に基づく指定棚田地域に指定されました。

今後も棚田の維持保全を図り、

棚田地域の振興に取り組みます。



青い空、緑の牧草に良く映える  
褐色の毛をまとう和牛  
土佐あかうし

そのルーツは明治時代初頭にさかのぼり

今日まで長い年月をかけ

この土地の風土に適応した牛へと

高知県内のみで独自に改良を重ねてきました。

現在、高知県内で飼われているのはわずか2400頭。

これは国内の和牛頭数の約0.1%という希少な数。

土佐町はこの幻の和牛土佐あかうしの日本一の産地。

今、若い生産者たちが土佐あかうしの歴史を絶やさぬよう

清らかな水と空気、そして豊かな自然に恵まれたここ土佐町で

丹精込めてその生産を続けています。

緑広がる  
大地からの  
豊かな恵み。

四国山地の裾野にある土佐町は、1000m級の山々に囲まれた盆地に位置しています。標高は250mから1500mほどで、平地はわずかしかありません。このような起伏に富んだ地形や盆地特有の寒暖差がある気候を活かし、基幹産業である農・畜・林産業に取り組んでいます。特に近年は、周辺の環境に配慮した環境保全型の農業や林業を推進しており、まちの未来に向けた後継者の育成にも力を入れています。



土佐町では古くから主要な作物として米を栽培しており、藩政時代から「土佐の三大米どころ」として知られてきました。多くは棚田で栽培され、良質な米(棚田米)を生産しています。また、米粉の生産・販売を行っており、米粉を使った商品の開発にも取り組んでいます。近年では、土佐町の歴史ある酒造り文化の維持と、地産外商・産業振興を目指し、酒米の生産拡大をはかっています。また、施設園芸(夏秋野菜)や果樹(ゆず・桃・りんご)栽培なども行われています。

花卉栽培では、夏の冷涼な気候と吉野川流域の豊かな自然環境を活かし、環境にやさしく高品質な生産に取り組んでいます。

農業分野における移住者やUターンもあつちで補助金制度も充実させ、新規就農者や生産者を支えています。



**sanchikara (サンチカラ)**  
土佐町でとれる減農薬で質の良い農産物などを、県内外の飲食店や小売店等へ直接販売したり、加工品の商品開発をすすめ、地産外商・販路拡大に取り組んでいます。



**スタービューティー**  
スタービューティー(土佐ヒメユリを改良した高知県独特の品種)、世界中で高知県でのみ栽培されているノーブルリリー、広く人気の高いカサブランカといったオリエンタル系ユリなどの花卉園芸も行われています。



人気のブランド牛、土佐あかうしの一大産地である土佐町。赤身肉の旨味が強く、レ스토랑からの需要も高まっています。畜舎整備、雌牛等導入資金の無利子貸し付けなど、生産者、新規就農者への支援を拡充し、生産規模の拡大をはかっています。町独自の牛品評会である子牛共励会も毎年7月に実施し、飼育技術の向上・優良牛の改良に取り組んでいます。



土佐町堆肥センター  
子牛共励会

畜産で発生する牛糞等の廃棄物を堆肥化する「土佐町堆肥センター」を建設し、環境保全型農業を推進しています。



酪農家  
畜産農家(嶺北畜産能力共進会)



(株)れいほく未来畜産基地



土佐町では、林野率87%という山間部ならではの環境を利用して、古くから林業が盛んに行われてきました。江戸時代には、土佐藩の財源を支えてきました。

当町をはじめ、嶺北地域で産出される「れいほく材」は良質材として定評があり、なかでもスギ材は芯に独特の赤色を帯びているのが特徴で、「赤身杉」「土佐の赤杉」と呼ばれています。

歴史ある林業を支えるため、土佐町では山林保全のための間伐を推進。平成24年に町内にできた木材チップ工場により、間伐材の買い取り環境を整備。環境先進企業との協定によって森林整備を進める「協働の森事業」などにも取り組んでいます。

自伐型林業

土佐町では自伐型林業者を目指した地域おこし協力隊を雇用し、森林環境譲与税を活用して、林業の担い手育成や森林整備等に取り組んでいます。



自伐型林業とは・・・

山林所有の有無、あるいは所有規模に関わらず、森林の経営や管理を自らが行う自立・自営的な林業のこと



協働の森

環境先進企業と協定を結び、手入れの行き届かない森林の再生に取り組む「協働の森づくり事業」。土佐町は現在、2者と「協働の森パートナーズ協定」を締結し、森林整備や地域交流活動を行っています。

豊かな水と自然が産み出す産業。

基幹産業の農業・畜産業・林業に関連した加工品の製造に取り組んでいます。

まちで生産されたコメを使った酒造りを行う、創業140年を超える造り酒屋、化学農薬や化学肥料を一切使わずに育てた自家栽培ぶどう100%のワインを醸造するワイナリー。  
澄んだ空気と豊かな水が産み出す加工品です。



土佐酒造作業風景



棚田風景



土佐酒造株式会社

明治10年(1877年)の創業以来、豊かな水と澄んだ空気の中で高品質な酒造りを行っています。酒蔵は、吉野川の源、四国の水がめと呼ばれる早明浦湖畔の静寂な自然環境に囲まれ、山間に広がる棚田では、昼夜の寒暖の差が大きく良質な酒米が生産されます。自然の恵みを活かした「桂月」は、山から湧き出る岩清水と地場産米で醸した淡麗辛口の銘酒で、古くから地域住民に愛され続けています。近年では、世界最大級のワイン品評会スパークリングの部で最優秀トロフィーを受賞した「スパークリング酒匠」、棚田米を山廃造りで純米酒にした「相川誉 山廃純米酒」等、多彩なラインナップを揃えています。



土佐酒造作業風景



土佐酒造商品



桂月館  
土佐酒造株式会社の敷地内には、その名を冠した高知県出身の文人、大町桂月の自筆掛け軸等を展示した私設文学館「桂月館」が建っています。



1F 展示

土佐酒造株式会社  
☎0887-82-0504  
<https://www.keigetsu.co.jp>



起業支援

起業支援として、平成29年度から「土佐町しごと創生スタート事業費補助金」事業を開始しました。

起業や新しい事業をスタートする事業者を後押しするこの事業の支援を受けて、土佐町初のワイナリー「ミシマファームワイナリー」、さめうら湖でのスポーツフィッシングガイドなどを手がける「早明浦ダムレンタルポート」、フランス菓子工房「le petit gouste (ル・プチ・グーテ)」など、様々な新しい事業がスタートしています。これからも、まちでの新たなチャレンジを応援していきます。



シェアオフィス相川 外観



オフィス

シェアオフィス事業

旧相川小学校2階の各教室を改修し、中山間地域にオフィスを設置したい都市圏企業の受け入れをしています。「自然豊かな地域でリフレッシュしながら仕事をしたい」「地域の課題解決に取り組みたい」「地域と連携した新しい事業に取り組みたい」。様々な理由でこれまで延べ5社が入居し、現在も3社が業務を行っています。

シェアオフィスへの入居をきっかけとして、これまでも沢山の方が土佐町に移住しています。



ミシマファームワイナリーの「土佐ぶどう酒」

ミシマファームワイナリーではぶどう栽培に不遇といわれる高知県で、化学農薬や化学肥料を一切使わずに育て自家栽培ぶどう100%のワインを醸造しています。自然栽培ぶどう農家ならではの「ぶどうの美味しさ」に徹底的にこだわったワインです。香りはぶどうの果実感そのものを表現し、反面、味はやさしいけれどきつくと辛い土佐ぶどう酒は、和食をはじめ様々な料理を引き立たせます。



ミシマファームワイナリー  
☎0887-72-2391  
<https://www.mishimafarm.com/>



チャレンジショップ

平成29年度にチャレンジショップ「ICO」がスタートしました。将来の開業・起業を目指す方が、最長1年間お試し出店ができる施設である「チャレンジショップ」は飲食業を対象にしており、これまで2店舗が出店しています。チャレンジショップを通じて、新しいチャレンジを積極的に応援していきます。



チャレンジショップを経て起業  
「le petit gouste (ル・プチ・グーテ)」  
✉lepetitgouter2019@gmail.com

土佐町の  
自然体験型  
観光の拠点。

湖の駅  
さめうらレイクタウン

令和2年9月、自然体験型観光の拠点「湖の駅さめうらレイクタウン」が誕生しました。レストランが併設されたホテル「さめうら荘レイクサイドホテル」と湖面を中心としたアクティビティが楽しめる施設にカフェが併設された「さめうらカヌーテラス」があります。



**さめうら荘  
レイクサイドホテル**  
さめうら湖のほとりに建つ土佐町観光交流宿泊施設「さめうら荘」が、平成30年12月にリニューアルオープンしました。  
嶺北産材をふんだんに使ったホテルの内装は、皆さまにやさしさを提供します。客室は全室レイクビューとなっており、デラックススイートルーム、和室では浴室からも広大な湖面を臨むことができます。  
レストランでは、土佐町が誇る土佐あかうしのステーキをはじめ、土佐あかうしを堪能できる極上和会席コースや早明浦ダムを模したダムカレーなど、地元食材を使用した土佐町ならではのメニューをご用意しております。

さめうら荘 レイクサイドホテル  
☎0887-82-1020



いしはらシャワークライミング

澄みきった川の中を、身体ひとつを使ってただひたすらに川上へ川上へと旅に出よう！初めてでも大丈夫。川の歩き方は川を知り尽くしたガイドが教えます。ヘルメット、ライフジャケット、ウェットスーツ、川靴は貸し出します。

集落活動センター いしはらの里  
☎0887-72-9328

道の駅「土佐さめうら」

国道439号線沿いに位置する道の駅「土佐さめうら」は、観光案内を行うほか、歌地内の食堂「与作」で地元食材を使用した美味しい料理が食べられるなど、楽しい観光拠点施設です。季節によって、土佐あかうしの牛串や、土佐あかうしコロッケの販売をしています！また、気軽に土佐あかうしが味わえる「手ぶらでBBQ」も実施しています。（予約制）



道の駅 土佐さめうら ☎0887-82-1680



カフェ

さめうら湖が展望できるテラスで、地元素材を活かしたドリンクやスイーツなどが堪能できます。アクティビティ体験以外のお客様もご利用できます。

さめうらカヌーテラス ☎0887-72-9919

**さめうら  
カヌーテラス**  
さめうら湖でのカヌーやSUPなど湖面のアクティビティを核とした体験プログラムを提供する自然体験型観光拠点。レンタルサイクルやアウトドア等の発着場所として位置付け、情報発信拠点として交流促進を行います。  
また、レクリエーションや休憩等にご利用いただけるコミュニティスペースを併設しており、住民が主体となった様々な活用により「教育・交流・体験」の場所づくりを目指します。



湖の駅

<https://mizuuminoeki.jp/>

さめうらカヌーテラス、  
さめうら荘の詳細はこちらから→





豊かな心を育む教育。

土佐町では子どもが教育の主役。「まちの発展は、人づくり」と捉え、よりよい未来を創造する高い意志を持った、心身ともに健やかな子どもを育成するための取り組みを、保育園・学校・家庭・地域・行政が連携して進めています。

町内には保育園が1園、小学校、中学校もともに1校ずつ。この教育環境を生かし、保小中一貫性のある連携教育を確立。さらに、将来へとつながる教育を推進します。

また、一人一人が生きがいをもって、生涯にわたり多様に学び交流する中で、健康で豊かな生活ができる地域社会の実現を目指しています。



土佐町小中学校

施設一体型の小中連携校として、児童生徒の交流や保護者・地域の方とも連携した教育活動を推進しています。日々、保護者や地域の方とも連携した教育活動を推進しています。ICTの導入等、自ら学び、ともに高め合い、未来を切り開くことができる環境を整備し、ふるさとを愛し、生きる力を育むことができる取組を実施していきます。



みつば保育園

子どもたちの元気な声が響いています。平成31年4月からはじまった保育料無償化をはじめ、子どもたちと共に、豊かな自然の中で、すこやかにいきいきと過ごし、安心して子育てできる環境づくりに取り組んでいます。



子育て支援センター ぽっぽ広場

未就園の子どもとその保護者を対象に気楽に遊べる居場所を提供しています。親子や子ども同士のふれあいの場、保護者同士の交流の場になっています。



土佐町学校応援団

地域の宝である子どもたちを、地域社会全体で見守り、育てていこう。そのための仕組みが、土佐町学校応援団です。現在、192名の町民が応援団員として参加しています(令和2年7月末現在)。小学校でのクラブ活動や郷土学習の講師を務めたり、中学校での部活動支援などを行い、教育現場に積極的に関わっています。定期的に保護者と協同で学校敷地内の草刈りなど環境整備にも力を入れています。また、子どもたちと机を並べて教室で授業を受ける「生涯学習学校」も行っています。

放課後学びの場応援

土佐町小学校で行っている「放課後子ども教室」。平日は平均60名の児童が利用し、学校応援団員の支援のもと、宿題をすませてから外遊びや読書などとして過ごしています。長期休暇中も開設し、多様な体験教室も実施しています。



読書のまち宣言

土佐町では、生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむまちを目指し、平成23年に「読書のまち」を宣言。保育園や学校、地域での読書活動を推進するとともに、学校図書館と連携し、町立図書館機能の充実をはかっています。



土佐町国語力向上イメージキャラクター「ヨモクン」



土佐町郷土学習センター (青木幹勇記念館) (土佐町民具資料館)

平成24年から郷土の歴史や文化、芸術などの模型や実物を展示することでわかりやすく学べる場として開設している「土佐町郷土学習センター」。「青木幹勇記念館」「民具資料館」を併設しています。



青木幹勇記念 全国子ども俳句大会

土佐町出身で、小学校国語教育の第一人者といわれる青木幹勇氏を顕彰して、「青木幹勇記念全国子ども俳句大会」を平成21年より開催し、全国の小・中学生から毎年多数の応募があります。その寄せられた俳句のうち、優れた作品には賞を授与しています。



木造十一面観音立像 絵の一木造、彫刻の彩色像、像高168cm。平安後期の作



姉妹都市交流

昭和60年、青森県十和田湖町(現・十和田市)と姉妹都市を締結しました。高知県出身の文豪、大町桂月が生涯を終えた同町。土佐町には地酒「桂月」があることから交流が始まり、毎年児童のホームステイによる交流が続いているほか、産業、文化、教育などさまざまな分野で交流を深めています。平成27年には、30周年となる節目の年となり、記念植樹も行われました。



明るい笑顔と  
優しさが  
息づくまち。

小さな子どもから高齢者まで、町民の  
だれもが健康で、いきいきと暮らせる…。  
そんなまちを土佐町は目指しています。  
そのために急務となるのが、高齢化への  
対応です。土佐町の高齢化率は44.4%。  
今後はさらに、高齢化が進むことが予測  
されます。高齢化社会に対応した地域福祉  
の仕組みづくりを目指し、土佐町では住民  
同士の支え合いの推進など、地域と行政が  
共同で取り組んでいます。  
また、子どもの健やかな成長を育むための  
子育て支援にも力を入れています。

高齢者がいきいきと自立した生活を  
送るためには、自分の健康は自分で守り、  
生活の質の向上を目指すための健康増進  
が大切です。土佐町では、保健、福祉、  
医療の連携により、疾病の早期発見、  
早期治療、介護予防を目的に「フィールド  
医学」を平成16年度から導入。高齢者の  
心身の機能検査（こ長寿健診）を行い、  
介護予防事業につなげています。また、  
介護予防に関する普及啓発を行うと  
ともに、住民の自主的な健康増進に結び  
つけています。  
さらに社会福祉協議会と連携して地域  
での支えあい活動に取り組んでいます。  
また、子育て世代を支えるため、各種  
健診や訪問相談活動、愛育相談、子育て  
支援、食育活動などを実施。また、18歳  
までの医療費無料化に取り組みなど、  
妊娠・出産から育児まで、一貫した子育て  
支援を行っています。



フィールド医学こ長寿健診

平成16年度より導入したフィールド医学。  
こ長寿健診として高齢者の心身の機能  
検査を総合的に実施し、介護予防事業や  
健康づくりにつなげています。

れいほくの里どんぐり



れいほくの里どんぐりは、障害福祉  
サービスにおける就労継続支援B型  
事業所です。パンやクッキー等の焼き  
菓子の製造販売を通して、それぞれ  
の方の体調や状態に応じて就労訓練を  
しています。



離乳食教室

離乳食は、食べるために必要な咀嚼力と生活リズムを身につける  
大事な時期の食事です。成長に合わせた離乳食の役割と進め方、  
作り方についてミニ講話と調理実習をセットにして年間3回行って  
います。調理実習では、季節の野菜と身近な食材を使い、家族の食事  
と同じ材料を使って作る「取り分け法」を中心に紹介しています。



食育活動

生活習慣病予防と認知症およびフレイル予防のための健康増進  
の取組と、楽しく料理する体験や次世代へつなぐ伝統料理を伝える  
食育推進の取組を、食生活改善推進協議会の事業を中心に、社会  
福祉協議会、教育委員会、その他健康づくり団体と連携し、情報発信  
と普及啓発を行っています。



新生児訪問

赤ちゃんが生まれ退院したら、ご自宅や里帰り先に、保健師や助産  
師が訪問し、赤ちゃんの健康状態の確認やお母さんの産後の体調  
や育児について相談に応じるとともに、育児に関する情報提供  
などを行っています。



乳幼児健診

子どもの発育や発達、病気の早期発見を含めた健康状態を確認  
するために、乳児、1歳6か月児、2歳児、3歳児に対して健診を実施  
しています。小児科や歯科医師による健診とともに、保健師や栄養  
士、歯科衛生士による指導や育児に関する相談に応じ、子育ての  
支援をしています。



高齢者見守り支援

高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、土佐町では  
高齢者見守り担当職員が町内の高齢者を訪問し、見守りを行っています。  
また、一人暮らしの高齢者で希望する方に、人の動きを検知する見守りセン  
サー機能付きの緊急通報装置を貸与しています。



あつたかふれあいセンター等  
町内各地での「こへんく」体験



やまびこ倶楽部

身体障害・知的障害・精神障害の方を対象に  
社会交流や創作活動等を行うディケアを開催  
しています。



おぼえがき

とんからりんの家の有志の皆さんが2009年に作成された  
「おぼえがき」を2019年8月に、本編・医療編の2部構成で  
改訂発行しました。  
「おぼえがき」は、今までの人生を振り返り、今からの人生を  
どう生きるか、過去を記録し、今を生き、未来へ託すという  
意味があります。

町民一体で  
安らぎのある、  
住みやすいまちへ。

土佐町は、住民の目線に立った行政サービスを提供し、住民のより良い暮らしの実現にむけて取り組んでいます。また、公衆衛生の向上と河川の水質保全等を目的とした下水道を整備し、安心安全な暮らしの実現に力を注いでいます。

多くの自治体と同じく、土佐町も少子化や高齢化、過疎化などの課題を抱えています。ですが、これらに正面から向かい合い、よりよい未来を見据えながら、一歩ずつ、力強く前進します。

土佐町の消防団は8分団、約240名の団員が火災発生時の消火活動や災害発生時における救助救出活動を行っています。また、自主防災組織の組織率は99.6%で、防災訓練や防災学習等の活動を行っています。

大阪府吹田市とフレンドシップ協定を結んでおり、住民相互の交流に加え、大規模災害時の応援物資や人員派遣などの相互支援のため災害時における相互応援協定も交わっています。

また、町内全域に光ファイバー網を敷設し、各世帯にIP告知放送端末を設置して屋内でも防災情報等を聞くことができるよう整備しました。土佐町防災掲示板アプリで携帯電話等からも防災情報を確認できます。



### 地域おこし協力隊

土佐町では平成24年から地域おこし協力隊を迎え、その新しい力を借りながら地域活性化の足掛かりをつかみ、地域の力を維持・強化するための取組を進めています。これまで12名の協力隊が任期を終え、令和2年12月現在15名が活躍しています。

活動分野は、林業、観光、高校魅力化、デザイン、教育、スポーツなど。それぞれが強い思いをもって地域の活性化のために取り組んでいます。



林業振興事業



図書館を通じた教育の振興事業



情報発信事業



観光振興事業



カヌー推進事業

### 子育てしやすいまち

土佐町は住みやすい、子育てしやすい町を目指しています。

町独自の支援として、若者の定住と福祉の増進のため結婚祝い金や、出産祝い金、保育手当等支給しています。

また、子どもの健康の保持と増進をめざして、子育て世代の医療費の負担軽減をはかるため18歳までの子どもの医療費の自己負担分を助成しています。



### ころろ広場

平成29年度に住民に芝生の植栽に協力いただき、誰もが気軽に利用できる芝生広場を整備しました。町民の憩いの場としての利用に加え、スポーツクラブ主催のイベント等幅広く利用されています。



### 住宅(中島城ノ台団地)

若者の定住促進のために、世帯向け戸建て住宅5戸と、Uターン向けの単身向け集合住宅1棟10戸を平成30年度に新たに整備しました。



### 土佐町議会

町民の声を届ける開かれた議会へ

土佐町議会は、町民の代表として10名の議員で構成された土佐町の代表機関です。土佐町長とともに町政の一翼を担っています。

土佐町のこれからの発展に向けて、町民の声を町政に反映する議事機関として、町民の期待・信頼に応えるべく活動しています。

3月、6月、9月、12月に行う年4回の定例会のほか、必要に応じて年数回の臨時会が招集され、町政の基本である予算や条例などの重要な事項を審議・決定します。2つの常任委員会を設置し重点的な審議を実施するとともに、必要に応じ特別委員会も設置しています。

地方分権時代にあつて住民自治の充実の必要性が期待されている中で、多様な民意を吸収し、それを集約し、自治体の意思決定を行う議会の役割はますます重要となっており、政策立案機能や監査機能の更なる充実強化、自主的な議会運営の必要性が高まっています。地域の中で多様化する町民の意思を反映させ討論を通じて土佐町の統一意識まで高めることができる議会を目指し、議員一同、たゆまぬ努力を続けていきます。

## カヌー振興



早明浦ダムを地域資源へと変えていく取組がスタートしています。  
西日本最大級の多目的ダムである早明浦ダム上流には、広大な「さめうら湖」が形成されています。さめうら湖は、風や波の影響を受けにくい安定した地形や、広大な面積など、カヌー競技に非常に適しており、「日本カヌー連盟から「日本屈指の競技環境」との評価を得ています。  
まちは、小中高生向けカヌークラブチーム「早明浦カヌーアカデミー」を設立するとともに、カヌー先進国であるハンガリーから元世界チャンピオンであるラヨシュ・ジョコシュ氏をコーチとして招へいし、カヌー競技の振興に着手しました。



ラヨシュ・ジョコシュ  
コーチ

湖面には、国内では珍しい全長1kmのコースレーンを設置しています。さらに、新設した「さめうらカヌーテラス」には、国内初の「ハンガリー式パドルプール（カヌー漕艇練習用プール）」を整備し、充実した競技・練習環境の構築にも取り組んでいます。  
まちは「カヌーのまち土佐町」の取組を通じ、将来はオリンピックに出場するようなカヌー選手の輩出を目指しています。また、全国のカヌーチームの合宿受け入れも積極的に取り組み、交流人口の拡大にも繋げていきます。

## 情報発信

町内外へ向けた情報発信に  
取り組んでいます。



**とさちょうものがたり**  
土佐町から発信するウェブマガジンです。土佐町にしか存在しないモノや人、土佐町ならではのものごと等、土佐町の「素敵なものごと」を届けます。

**とさちょうものがたりZINE**  
とさちょうものがたりが土佐町の魅力を発信していく中で、「これは印刷したい!」「一冊にまとめて!」という内容を、不定期刊行でお届けする土佐町の雑誌。



## ふるさと納税



土佐れいほく野菜



土佐棚田の米



土佐あかうし

※冷凍でお届けいたします。

## ふるさと納税、 返礼品について

土佐町では、土佐町出身者や全国の皆さん、団体などで、土佐町の取組に共感し、賛同いただける方から土佐町ふるさと納税を通じてご寄付をいただき、基金として積み立てて、個性と魅力あるふるさとづくりを進めています。  
寄附金を活用する事業については次の3つです。

- (1) 自然環境、景観および森林資材の維持・保全・整備、産業振興に関する事業
- (2) 安全、安心、健康で住みよいまちづくり、地域活性化の推進に関する事業
- (3) 未来を担う人づくり、子育て支援、住民自治および地域コミュニティの醸成・推進に関する事業

ご寄附いただいた方には、「土佐あかうし」関連の品や、銘酒「桂月」、土佐町で育った美味しい野菜やお米、地元の方が作ったお菓子や焼き肉のたれ等の食料品、嶺北産材の木工製品など、様々な特産品の中から、返礼品をお選びいただけます。



桂月



Ombelicoのジンジャーシロップ

OriOriの米粉のグラノーラ

OriOriの焼き菓子セット

嶺北アイス

万次郎かぼちゃのジェラート

手作り干し芋

ゆず製品

土佐あかうしせんべい

母さん印「焼肉のたれ」



土佐町役場ホームページ  
<http://www.town.tosa.kochi.jp/>  
←詳細については、土佐町ホームページ・各ふるさと納税ポータルサイトにてご確認ください。



とさちょうものがたり  
<https://tosacho.com>



Facebook 土佐町 →  
土佐町の魅力や情報…「行事」「自然」「人」「職」「教育」など…タイムリーな情報を発信しています。

活力ある  
まちの実現に  
むけて。

### 集落活動センター！ 地域担当職員制度

土佐町は、幸福を感じながら健康で元気で安心して暮らし続けられるまちづくりを目指し、「活力のあるまちの実現」に取り組んでいます。多くの自治体と同じく、少子化や高齢化などによる人口減少が進み、集落の維持が課題となっている中で、集落をどう維持していくか、住民の方々と地域の将来の姿を共有しながら、課題解決に取り組んでいます。

### 嶺北高校魅力化

地域にある唯一の高校である「高知県立嶺北高等学校」。嶺北4町村が協力し、この嶺北高校をこれまで以上に魅力的な学校にすることを通じて、地域内外から嶺北高校へ進学する人を増やし、高校の維持存続や活性化を通じた地域の活性化に取り組んでいます。

平成29年度には高校での学習をサポートする公設塾「燈心嶺」を設立。また平成31年度には土佐町・本山町の遊休施設を改修し、地域外からの進学者が暮らす寮「嶺北研修交流学舎」をスタートしました。こうした取組の結果、平成30年度に15名まで減少していた嶺北高校への入学者は、令和2年度には約35名までV字回復するといった成果が出ています。

令和2年度にはこうした取組の実行体制をさらに強化するため、土佐町・本山町で「一般社団法人いほく未来創造協議会」を設立しました。また令和3年度からは、寮機能も備えた複合施設「教育魅力化・交流支援センター」も整備されます。



燈心嶺授業風景

### 集落活動センター いしはらの里

県内2番目の集落活動センターとして、平成24年度から生活店舗・直販市の運営や石原コミュニティセンター・いしはらの家での宿泊事業などの地域づくり活動に取り組んでいます。

宿泊等に関するお問い合わせ：☎0887-72-9328



石原コミュニティセンターは学校の雰囲気を楽しめる宿で、最大60名の宿泊が可能です。



いしはらの家はいしはらの木材で建てられた一棟貸しの宿泊施設です。



### 集落活動センター 松ヶ丘

令和2年度から「みんな仲良く子どもからシニアまで、自然豊かで憩いの場があり、地域内で助けあって、年をとっても安心して心身共に、元気に暮らせる松ヶ丘」を10年後の目指す姿として、農業や地域内外の交流など優先順位の高いものから取組を始めています。

問い合わせ先：☎0887-72-9155



### 移住・田舎暮らし

土佐町は高知県内屈指の移住者が多いまちです。平成26年度以降、181世帯268名の方が土佐町に移住し(令和2年8月末現在)、様々な立場で活躍しています。土佐町へのUITターン者を中心と成り結成された「NPO法人いほく田舎暮らしネットワーク」が、移住当事者の立場にたった丁寧なサポート体制を構築していることで、安心して地域に移住することが出来ます。他の地域と比較して、30〜40代の子育て世代の移住が多いことが土佐町の特徴です。

### 集落営農組織

集落単位で農地を守り、活用する集落の担い手として営農に取り組む組織です。集落の皆で話し合い、ともに考え、農地や農業、地域の維持及び活性化を目指しています。令和2年12月1日現在、町内には5つの集落営農組織があります。作業受委託体制整備、農業機械・施設の共同化、直販・加工共同活動など、地域に必要なことを、できることから取り組んでいます。



### 松木野営農組織

平成28年6月、「笑いの絶えない集落、結いの継続」をスローガンに溜井松木野地区に住む7戸で立ち上げました。高齢のため、耕作できなくなった方の農地を荒らすのはのびないと地域で声があがったことがきっかけです。あぜ塗り、田植え、稲刈りの受託のほか、さつま芋の栽培と干し芋の加工販売に取り組み、所得向上を目指しています。



### 地域担当職員制度

高齢化や人口減少に伴い、土佐町でも、住民だけでは集落の維持が困難な地域が増えました。このためまちでは、平成27年度から「地域担当職員制度」を設けています。

役員職員ひとりひとりが、地域に暮らす住民の声を直接聞くことで、それぞれの担当業務等でも地域の実情を踏まえた取組ができ、また、地域の困りごとをいち早く把握し、その解決に向けて取り組むことも増えています。

令和2年度には田井地域の若手担当職員が中心となり、クラウドファンディングを活用し、倒木で被害を受けた中島観音堂通夜堂の修復に取り組みました。

# まつり・イベント

1月

## 土佐町駅伝大会

国道439号線に沿って走る町民マラソン大会。友達や職場、同窓生などの仲間とタスキをつなぎゴールを目指す。

3月

## アメゴ・マス釣り大会 1

地藏寺川ふれあい広場前の地藏寺川にて行われる釣り大会。当日は多くの釣り人で賑わう。

4月

## 春のよさく市 2

地元手作りのたけのこ寿司や山菜など新緑の春を迎えた山の恵みを取り揃えた集落活動センターいしはらの里の良心市。

5月

## 新緑の市 3

道の駅土佐さめうら主催の直販市。田舎寿司などの地元ならではの物産などを販売。

6月

## 宮古野虫送り

田んぼにいる害虫を西の方角に逃がして、豊かな実りを祈る伝統行事。大きなわらじを担ぎ、太鼓などを鳴らしながら行列が練り歩く。

7月

## 南川百万遍祭 4

無病息災・家内安全・五穀豊穡などを祈念する伝統行事。大谷寺の住職の読経のなか念仏代わりの太鼓の音を伴い長さ30メートルほどの大きな数珠を担いで舞堂の中を廻る「繰り」を行う。町の無形民俗文化財に指定されており、舞堂は町の有形民俗文化財に指定されている。

## 中島観音様夏の祭 5

観音菩薩をお祀りするため旧暦6月17日の夜に行われている夏祭り。この日に併せて高知県有形文化財の11面観音立像が年に1度開帳される。

8月

## やまびこカーニバル 6

2日間にわたり行われるイベント。1日目は早明浦ダム直下広場にて、パーベキューや約2000発の花火が夜空を彩り、2日目はスポーツイベントなどのさまざまな催しが開催される。

10月

## 秋のよさく市 7

地元手作りのたけのこ寿司や山菜など収穫の秋を迎えた農作物などを取り揃えた集落活動センターいしはらの里の良心市。

11月

## 紅葉の市 8

道の駅土佐さめうら主催の直販市。田舎寿司などの地元ならではの物産などを販売。

## さめうらの郷湖畔マラソン

早明浦ダム湖畔がコースのマラソン大会。美しい湖畔の景観美が魅力のひとつ。

## 土佐町産業文化祭 9

町産業文化の振興に寄与する祭り。町内各地からの商品が出店されたり、様々な催しが開催される。



宮古野虫送り



南川百万遍祭



中島観音様夏の祭



やまびこカーニバル



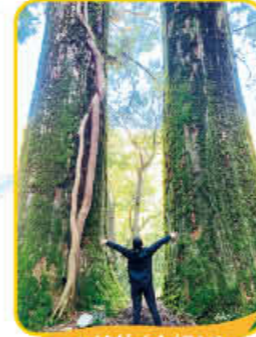
土佐町産業文化祭



福登山登山



アケボノツツジ



かやぶき古民家  
奥さめうらの里



瀬戸川溪谷遊歩道



アメガエリの滝



いしはらの福寿草



やまごとの市



高須標田ビュースポット



ふれあい牧場  
体験学習交流施設



# 土佐町まっぷ

※詳しいイベント情報は土佐町HP (<http://www.town.tosa.kochi.jp/publics/Index/21/>)まで。



## 棚田米

土佐町の風景となっている、幾重にも連なる棚田。生産者の細やかな手入れによって棚田は維持され、毎年豊かな実りをもたらします。山間部特有の昼夜の温度差が甘みを育んだ一品です。



土佐みめうら「はでかけ米」

問合せ先:道の駅土佐さめうら ☎0887-82-1680

香り米 (1kg)

もち米 (1.4kg)

問合せ先  
JA高知県れいほく営農経済センター  
☎0887-82-2803



ひのひかり (10kg)



れいほく育ち「ひのひかり」(3kg)



れいほく穂乃香 (5kg)



土佐棚田の米 (5kg)



土佐棚田の米「こだわり」(5kg・2kg)



スナップエンドウ

トマト

彩どりピーマン

ししとう

## 地域ブランド野菜 れいほく八菜

「環境・安全・安心」をキーワードにJA高知県れいほく園芸部の生産者が環境にやさしい農業に取り組み、手塩にかけて栽培した野菜のことです。八菜の「八」は未広がりを意味し、子々孫々までれいほくの豊かな環境を守り伝えていく思いが詰まっています。



米ナス

ゆず

# 土佐町の 特産品



道の駅限定  
牛串

道の駅限定  
あかうしコロッケ

問合せ先:道の駅土佐さめうら  
☎0887-82-1680  
<https://www.tosa-sameura.com>



モモ肉ブロック

## 土佐あかうし

土佐町は土佐あかうしの飼育頭数全国1位。噛むほどに広がる赤身の旨さと、脂肪の程よいバランス。ジューシーでさっぱりした味わいで、肉本来のおいしさを味わえると人気です。高知県では、赤身の質を重視した独自の基準、トサルービーフ (TRB) 格付けを導入し、従来の牛肉の格付方式では評価しづらかった、土佐あかうしのおいしさを評価しています。R4、R5の評価を受けたお肉を「土佐あかうしルービーフ」とし、国産和牛赤身肉の最高峰としてブランド化を進めています。



あかうしハンバーグ

# 土佐町の特産品



土佐あかうしローストビーフ



土佐あかうしせんべい



焼肉のたれ



れいほく高原



嶺北高原牛乳



地蜜



桐田の米粉



米粉ミックス



ふくら米粉



酔わせてまんじ郎



桂月 酒粕



土佐あかうしアイス



万次郎 ジェラート



桃のアイスクリーム



れいほく高原ヨーグルト



イタドリラー油



イタドリふりかけ



ジンジャーシロップ



ゆずビネガー



森のゆずジュース



郷のゆずすし酢



郷のゆず ぽん酢しょうゆ



郷のゆず ぽん酢しょうゆ



郷のゆず グリーンチリソース

道の駅「土佐さめうら」では、  
幻の和牛「土佐あかうし」のお肉や、土佐酒造の「桂月」、町内各地区の有志によって製品化された土佐町ならではの品など、土佐町が誇るさまざまな特産品を取り扱っております。お土産として、またはお家で、ぜひ、土佐町の特産品をお楽しみください。



たけのこ寿司



長老喜



干し手



田舎寿司



さめうら漬物



チャーテカすづけ



わんぱくゆずジュース



はちみつゆず



ゆずジャム



わんぱくゆず茶



ゆず酢 ぽん酢



しぼってゆず



わんぱくゆず 希釈用8倍

問合せ先: 道の駅土佐さめうら  
☎0887-82-1680  
<https://www.tosa-sameura.com>



Forest商品

木工製品  
土佐嶺北産の杉などを使用した木工製品は、丹精を込めてひとつひとつ作成されています。お家や職場などで使用できる卓上小物入れやコースターなどがあり、それぞれに繊細な模様が施されています。



さめうら商品



シゲ爺の野菜餃子



ぜんまい水煮



ゆず玉ねぎ



ゆずま



ゆず塩



ゆず塩胡椒



ゆず七味

問合せ先  
JA高知県れいほく農業経済センター  
☎0887-82-2803



# 土佐町の歩み

## 昭和

- 昭和30年〔3月〕地藏寺、森、田井の3村が合併し、土佐村誕生
- 〔4月〕初代村長に上田敏雄氏就任
- 〔7月〕はと保育所落成
- 〔10月〕石原小学校校舎新築
- 昭和32年〔4月〕伊勢川小と湖井小を統合、松ヶ丘小となる
- 〔5月〕村歌制定
- 昭和34年〔4月〕2代村長に上田敏雄氏再選
- 〔8月〕田井保育所落成
- 昭和35年〔9月〕土佐村商工会設立
- 昭和36年〔3月〕和田小学校校舎新築
- 〔4月〕石原保育所落成
- 〔4月〕本山町大河内地区5部落、土佐村編入合併
- 昭和38年〔2月〕有線放送施設完成
- 〔4月〕3代村長に上田敏雄氏再選
- 〔10月〕新庁舎落成、合併8周年記念式典
- 昭和39年〔4月〕3農協合併し、土佐村農協発足
- 〔4月〕能地分校を平石小学校に統合
- 昭和40年〔7月〕高須に「土佐村協賛センター」発足
- 昭和42年〔4月〕4代村長に宮本岩雄氏就任
- 〔10月〕早明浦ダム本体工事着手
- 昭和43年〔6月〕日本鉱業下川鉱山操業停止
- 昭和44年〔3月〕大河内小中学校閉校、松ヶ丘小学校閉校
- 昭和45年〔4月〕町制施行、土佐町として発足
- 町の木に「杉」を決定
- 〔4月〕統合田井小学校発足
- 〔8月〕台風10号来襲、町内各地に大きな被害
- 〔10月〕城北観光バス発足
- 昭和46年〔3月〕城北高校森分校閉校
- 〔4月〕5代村長に浪越三郎氏就任
- 〔5月〕広域給食センター発足
- 〔7月〕有線放送電話を有線放送施設に切り替え
- 昭和47年〔11月〕町立図書館(近藤文庫)落成
- 昭和48年〔11月〕早明浦ダム落成
- 〔12月〕青少年等の家(さめうら)荘落成
- 昭和49年〔9月〕台風18号来襲、概地区に大被害、死者発生
- 昭和50年〔3月〕小集落地区改良事業、改良住宅50戸完成
- 〔4月〕6代村長に西村勝仲氏就任
- 〔8月〕台風5、6号来襲、西部地区に大被害
- 昭和51年〔2月〕城北農業センター落成
- 〔4月〕土佐町森林組合新庁舎落成
- 昭和53年〔3月〕中央福祉センター落成
- 〔7月〕高知分木事業竣工
- 昭和54年〔7月〕7代村長に西村勝仲氏再選
- 〔3月〕平石簡易水道竣工
- 〔5月〕石原文化会館落成
- 町の島に「おおり」選定
- 昭和55年〔3月〕地域集団電話(一般電話)切り替え
- 〔3月〕田井保育所改築
- 昭和56年〔3月〕湖井伊勢川簡易水道竣工
- 〔4月〕県道梅原吉川土佐線、国道439号線に昇格
- 〔5月〕稲村ダム完成
- 〔8月〕第1回早明浦湖水まつり
- 昭和58年〔3月〕町内6中学校閉校
- 〔3月〕統合土佐町中学校落成、東石原簡易水道竣工
- 〔4月〕平石線バス乗り入れ
- 〔8月〕8代村長に西村勝仲氏再選
- 〔7月〕土佐町農協総合施設、中央幹集落センター落成
- 昭和59年〔3月〕土佐町史発刊、井ノ上日浦簡易水道竣工
- 〔8月〕第1回「回やまびこカーニバル」
- 〔9月〕農村環境改善センター落成
- 〔10月〕城北観光自動車、田井以西バス路線引継ぎ
- 昭和60年〔4月〕町民憲章制定
- 〔4月〕土佐町合併30周年記念式典
- 〔6月〕青森県十和田湖町と姉妹都市締結
- 〔11月〕第1回早明浦湖群マラソン
- 昭和61年〔3月〕森小学校落成
- 〔7月〕さめうら湖ふれあいの広場、建設着手づくり故郷賞認定
- 〔7月〕第3セクター、土佐産商株式会社設立
- 昭和62年〔3月〕特別養護老人ホーム「トキワ苑」落成
- 〔4月〕9代村長に西村勝仲氏再選
- 〔5月〕さめうら森林公園落成
- 〔3月〕石原小学校落成
- 昭和63年〔8月〕城北フレカト事業協同組合創立
- 〔12月〕栗ノ木飲料水供給施設竣工

## 平成

- 平成2年〔3月〕柿ノ久保飲料水供給施設竣工
- 〔3月〕土佐町史発刊、地藏寺小学校落成
- 〔3月〕プラチナ事業センター落成、南川小学校閉校
- 〔7月〕土佐町歌・音頭編曲、土佐町音頭に振付完成
- 〔10月〕土佐さめうら太鼓結成
- 〔3月〕下瀬戸飲料水供給施設竣工
- 〔3月〕立割飲料水供給施設竣工
- 〔4月〕10代村長に志和友晴氏就任
- 平成3年〔7月〕城北畜産落成(城北広域行政事務組合)
- 〔4月〕(財)木材研究所土佐人材養成センター設立
- 平成4年〔2月〕特別養護老人ホーム「トキワ苑」増築
- 〔4月〕相川小学校落成
- 〔7月〕町の花に「あじさい」選定
- 平成5年〔3月〕平石小学校落成
- 平成6年〔6月〕新ライスセンター完成
- 〔7月〕異常洪水で早明浦ダムが運用開始以来初めて、利水貯水がゼロになった
- 平成7年〔10月〕早明浦ダム湖に在日米軍機墜落
- 〔4月〕11代村長に志和友晴氏再選・2期目
- 〔6月〕早明浦ダム1万本植樹祭に四国四県の児童1700人が参加
- 青森県十和田湖町との姉妹町提携10周年
- 〔8月〕全国中学校体育大会ソフトボール男子で、土佐町中学校が準優勝
- 平成8年〔4月〕土佐町中学校と城北高校の中高連携授業開始
- 〔8月〕田島遺跡から弥生時代の竪穴式住居発見
- 平成9年〔4月〕木の博物館(木遊館)開館
- 〔8月〕第1回ふるさと里帰りフォーラム開催
- 〔10月〕土佐地区商工会がポイントカードシステム「ダムダムカード」導入
- 〔11月〕保健福祉センター竣工
- 平成10年〔4月〕道の駅「土佐さめうら」オープン
- 〔8月〕第2回ふるさと里帰りフォーラム開催
- 〔10月〕集合処理型下水道施設「相川クリーンセンター」竣工
- 平成11年〔3月〕土佐産商の木材燻燥乾燥処理プラント完成
- 〔4月〕12代村長に志和友晴氏再選・3期目
- 〔6月〕土佐柴刈唄が全国民謡十選に選定
- 平成12年〔12月〕集合処理型下水道施設「地蔵寺クリーンセンター」竣工
- 〔2月〕土佐れいほく農協の5割減農薬スタスが県の認定第1号に
- 平成14年〔3月〕土佐町議会議員定数14名に減少
- 〔4月〕町制施行30周年
- 平成15年〔4月〕13代村長に西村卓士氏就任
- 平成16年〔5月〕フィールド医学導入
- 平成17年〔4月〕町立図書館、田井に移転オープン
- 〔4月〕土佐町合併50周年記念式典
- 平成18年〔4月〕町内3保育所を統合し、みづば保育園開園
- 〔3月〕土佐町議会議員定数12名に減少
- 〔4月〕とんからんの家オープン
- 〔3月〕肉用牛繁殖預託施設、酪農センターの敷地の一角に新設
- 〔5月〕稲村ダム近くの国有林を森林体験学習の場として活用する
- 〔10月〕JA土佐れいほくが「れいほく八葉ブランド」の浸透など、地域活性化への貢献が評価され、総務省全国過疎地域自立促進連盟会長賞を受賞
- 平成19年〔2月〕コップ自然派連合、「協働の森」協定を締結
- 中江産業と土佐町森林組合が環境にやさしい
- 〔3月〕森林経営を認証するSGEC森林認証を取得
- 〔4月〕14代村長に西村卓士氏再選・2期目
- 〔11月〕城北材ブランド化協議会が木造住宅キッド「れいほくスタイル」を商品化
- 平成20年〔12月〕大阪府吹田市とフレンドシップ交流を調印
- 平成20年〔8月〕「回想早明浦ダム」建設前の記録映像「DVD」で復刻
- 〔10月〕県上ラック協会、「協働の森」協定を締結
- 平成21年〔3月〕四国初の米粉工場完成
- 〔4月〕町内6小学校を統合し、土佐町小学校として閉校
- 〔5月〕朝日技研進出工場落成
- 〔9月〕グループホーム「花みずき」開所
- 平成22年〔6月〕朝日技研、「協働の森」協定を締結
- 〔9月〕土佐産直サテライトセンター「とさ千里」、リニールオープン
- 〔10月〕さめうら湖でバスラッシュングアトリーナメントJTBトラファ50、初開催
- 〔11月〕町営住宅「上野団地」落成

## 平成

- 平成23年〔3月〕読書のまちを宣言する
- 〔4月〕15代村長に西村卓士氏再選・3期目
- 平成24年〔3月〕ヤセク高知、新工場完成
- 〔3月〕財団法人土佐人材養成センター解散
- 〔5月〕森チップ工場、操業開始
- 〔9月〕土佐産商株式会社解散
- 〔7月〕集落活動センターいしほの里を開設
- 〔9月〕土佐町役場新庁舎完成
- 〔11月〕土佐町郷土学習センター
- 平成25年〔9月〕高知・土佐町地域交流センター「いしほの里」発着事業を、県、事業者と三者協定締結
- 〔10月〕和田恋くん(田井)、プロ野球ドラフト会議で、巨人に2位指名、入団へ
- 〔11月〕地域の維持、活性化のために石原地区の住民出資の合同会社「いしほの里」設立
- 平成26年〔3月〕町営住宅「舞田団地(高齢者若者)」落成
- 〔3月〕(株)れいほく未来、土佐あかし生産基地(畜舎)第1期工事完成
- 〔7月〕(株)れいほく未来、土佐あかし生産基地(畜舎)第2期工事完成
- 平成27年〔2月〕土佐産直サテライトセンター「とさ千里」閉店
- 〔3月〕(株)れいほく未来、土佐あかし生産基地(畜舎)第3期工事完成
- 〔3月〕こうち高高山ソーラーファーム完成
- 〔4月〕土佐町議会議員定数10名に減少
- 〔4月〕16代村長に和田守也氏就任
- 〔4月〕榊大橋完成
- 〔4月〕松ヶ丘コミュニティセンター完成
- 〔4月〕土佐町農村交流施設「おぜはろ」完成
- 〔6月〕地域担当職員制度導入
- 〔8月〕青森県十和田市と姉妹都市締結20周年
- 〔11月〕国道439号線石原バイパス開通
- 平成28年〔1月〕旧とさ千里店舗活用開始「コンビニエンスストア開店」
- 平成29年〔4月〕城北高校魅力化の取組開始
- 〔10月〕高校での学習をサポートする公設塾「燈心寮」設立
- 〔10月〕土佐町芝生広場(通称「ころろ広場」)完成
- 平成30年〔8月〕「城北高等学校魅力化の会」設立
- 〔4月〕若者定住のための町営住宅「城ノ台団地」完成
- 〔12月〕さめうら荘リニールオープン
- 平成31年〔3月〕県道高知本山線標山トンネル工事起工式
- 〔4月〕17代村長に和田守也氏再選・2期目
- 令和元年〔7月〕城北地域観光キャンペーン「土佐れいほく博」開始
- 〔12月〕城北地域観光キャンペーン「土佐れいほく博」終了
- 令和2年〔5月〕住民票ワンビエ交付サービス開始
- 〔3月〕一般社団法人れいほく未来創造協議会設立
- 〔6月〕集落活動センター「松ヶ丘」を開設
- 〔7月〕SDGs未来都市に選定される
- 〔9月〕さめうらカヌーアスリートオープン

## 令和

## future

# 発刊に寄せて

## 持続可能なまちづくりを目指して

土佐町は、四国のほぼ中央に位置し、東西に流れる吉野川及び支流に沿って集落が形成され、昭和48年に建設された早明浦ダムは、四国四県に分水され多くの人々の暮らしや産業を支えています。

町の主要産業は第一次産業で、豊かな水と森を資源として林業や農業、土佐あかうしの産地として栄えてまいりました。

少子高齢化、過疎化が進む中、集落の維持再生に取り組みとともに、医療・介護・福祉の連携の下「フィールド医学事業」や「あったかふれあいセンター事業」「とんからりんの家」等介護に頼らない長寿の町を目指しています。

子育て支援として小中学校の給食費の無償化、出産祝い金、保育助成金制度、高校までの医療費無償化等産み育てやすい環境づくりに努めています。

教育においては、保小中高等の学校教育の充実、探求型学習やアントレプレナーシップ教育を進め中山間地域においても質の高い教育を目指します。

また、地域で唯一の嶺北高等学校の魅力化を推進するとともに地域で学ぶ環境の充実に努めます。

観光では、自然体験型観光の拠点施設として湖の駅「さめうらレイクタウン」の整備を進めており、早明浦ダム湖周辺をレジャーカヌーや競技カヌー、サイクリング等アクティビティの場として提供していきます。

本町は、令和2年度にSDGs未来都市に選定されました。町が目指す持続可能な水源のまち土佐町を実現するために第7次振興計画を軸にゴールを目標に推進していきます。

令和元年度に実施いたしました町民幸福度調査を基に町民の皆様が大切につくってこられた「これまでの土佐町」を大切にしながら「これからの未来の土佐町」をつくるため、その指針となる新しい「土佐町のものさし」をつくっていきたくと思っています。

その「土佐町のものさし」をつくるために自治体SDGsと住民幸福度調査に基づいた「誰一人取り残さない」持続可能なまちづくりを目指していきます。



土佐町長  
和田 守也

## 土佐町プロフィール



### 沿革

明治22年の町村制でできた土佐郡森村・地藏寺村と長岡郡田井村が昭和30年3月に合併して土佐村が誕生。さらに昭和36年4月に、当時の本山町の一部であった大淵、古味、井尻、下川、上津川の5地区が編入合併し、今日に至る。早明浦ダム建設をきっかけに田井地区を中心に市街地が開け、昭和45年4月1日から町制を施行しました。

### 位置・地勢

本町は、東経133度32分6秒、北緯33度44分、高知県北部、四国のほぼ中央部の標高300～500mに位置しています。広ぼう(東西、南北の広さ)は東西20km、南北19kmで、総面積212.11km<sup>2</sup>。面積の87%が山林で占められています。町の東西には吉野川が流れ、「四国のいのち」といわれる早明浦ダムがあります。

### 交通

高知自動車道大豊ICより国道439号線で20分  
JR大杉駅よりバス25分

土佐町HP : <https://www.town.tosa.kochi.jp/>





## 土佐町

〒781-3401 高知県土佐郡土佐町土居194

TEL 0887-82-0480 FAX 0887-70-1333

<http://www.town.tosa.kochi.jp/>